

愛知東邦大学 シラバス

| | | | |
|--------------------|----------|-----------------------------|----|
| 開講年度(Year) | 2024年度 | 開講期(Semester) | 前期 |
| 授業科目名(Course name) | 司法・犯罪心理学 | | |
| 担当者(Instructors) | 丹藤 克也 | 配当年次(Dividend year) | 1 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 選択 |

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業では、(a) 犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基礎知識と、(b) 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援についての基礎知識の修得を目指す。本授業を通して司法・犯罪心理学が実証的な学問領域であることを理解し、犯罪に関する社会問題について、エビデンスに基づいて議論する態度を形成する。なお、授業の性質上、講義の中で犯罪に関連する不快な話や資料を使用する可能性がある。その点を承知した上で、各自の適性を考慮して受講すること。

■授業形態・授業の方法(Class form)

| | |
|---------------------|-------------------------------------|
| 授業形態(Class form) | 講義 |
| 授業の方法(Class method) | 講義形式で授業を行う。テキストは使用せず、配付プリントをもとに進める。 |

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
|---------|------------------------------|--|--------------------------|
| 第1回 | 司法・犯罪心理学の概要とオリエンテーション | 授業の進め方と、司法・犯罪心理学がどのような領域によって構成されているのか解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第2回 | 犯罪原因論 (1) 生物学的・心理的要因 | 犯罪が生じる原因として、生物学的要因と心理的要因を取り上げて解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第3回 | 犯罪原因論 (2) 社会的・環境的要因 | 犯罪が生じる原因として、社会的要因と環境的要因を取り上げて解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第4回 | 各種犯罪者の行動パターン (1) : 殺人 | 殺人(連続殺人, 大量殺人を含む)の現状と犯人の類型について解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第5回 | 各種犯罪者の行動パターン (2) : 性犯罪 | 性犯罪の現状および動機に基づく犯人の類型について解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第6回 | 各種犯罪者の行動パターン (3) : DV、ストーキング | DVとストーキングの現状と犯人の類型について解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第7回 | 犯罪・非行の矯正・更生 | 犯罪者、非行少年の矯正・更正についての取り組みとその心理学的基礎について解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第8回 | 犯罪捜査の支援 (1) 犯人像プロファイリング | 犯罪捜査の心理学的な支援として、犯人像プロファイリングを取り上げて解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第9回 | 犯罪捜査の支援 (2) ポリグラフ検査 | 犯罪捜査の心理学的な支援として、ポリグラフ検査を中心に解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第10回 | 犯罪捜査の支援 (3) 取調べ、子どもへの司法面接 | 犯罪捜査の心理学的な支援として、司法面接を取り上げて解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第11回 | 環境と犯罪: 割れ窓理論、地域防犯 | 防犯のための理論と取り組みについて解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第12回 | 犯罪被害者への支援 (1) 被害者支援の歴史と法制度 | 被害者支援に関する法制度と歴史について解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第13回 | 犯罪被害者への支援 (2) PTSDとケア | 被害者支援としてPTSDのケアについて解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第14回 | 家事事件における法律・制度と心理的諸問題 | 家庭裁判所における心理学的諸問題を取り上げて解説する。 | <input type="checkbox"/> |
| 第15回 | 全体のまとめ | 全体のまとめ、振り返りを行う。 | <input type="checkbox"/> |

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習: 配付プリントや参考図書を読み、各回の概要を理解した上で授業に臨むこと(2時間程度)。事前学習: 授業で学んだ内容を授業プリントを用いて復習し、テーマに関連するニュースをインターネットや新聞データベースなどを利用して調べる(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の授業で、授業テーマに関連した質問・意見の提出を求める（授業時間内での提出）。質問や意見は、翌週の授業の冒頭でいくつか取り上げて解説をします。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|--------------|-------------------|--|
| 知識・技能 | ◇ 2019人間健康DP1 | 犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的事項が説明できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援について説明できる。 |
| 思考力・判断力・表現力 | ◆ 2019人間健康DP2 | 司法・犯罪分野における問題に対して、エビデンスに基づいて議論することができる。 |

■成績評価(Evaluation method)

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験 (in-class exam) | その他(Other) |
|--------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|------------|
| 50% | | | | 50% |

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の授業で提出を求めるリアクションペーパー（50%）。期末テスト（50%）。

■テキスト(Textbooks)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|-----------|--------------------|------------|
| 1 | 授業内容に応じて資料を配付する。 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

■参考図書(references books)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|-----------|--|------------|
| 1 | 越智啓太 (2020) Progress & Application 司法・犯罪心理学 サイエンス社 | |
| 2 | 岡本吉生 (編) (2019) 司法・犯罪心理学 (公認心理師の基礎と実践19) 遠見書房 | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |